秋田市

市内遺跡確認調査報告書

2003.3　秋田市教育委員会

序

本書は、平成14年度に実施した市内遺跡確認調査の報告書です。

埋蔵文化財は地域の歴史を解明する重要な資料であり、貴重な文化遺産として保護し、未来へ引き継いでいかなくてはなりません。秋田市には、現在374箇所の埋蔵文化財包蔵地が登録されており、保存に努めております。

今年度の調査では「上新城中学校遺跡」の範囲が拡大することが確認され、また、「久保田城跡」では旧内堀跡が確認されました。

このように、近年、宅地開発や農業基盤整備などの開発事業が増加し、埋蔵文化財の保護が急務となっておりますが、遺跡確認調査はそれら各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るための基礎となるものです。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保護活動の啓発と普及、そして学術研究のために活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、調査にご協力いただきました関係各位の皆様に感謝申し上げるとともに、今後とも埋蔵文化財の保護につきまして、ご理解いただきますようお願い申し上げます。

平成15年３月

秋田市教育委員会

教育長　飯　塚　　明

例　言

1　本報告書は、市内に所在する遺跡及び遺跡存在可能性地において、開発事業などに伴って実施された平成14年度遺跡確認調査報告書である。

2　確認調査は、秋田市教育委員会が調査主体となり、平成14年度国庫補助金並びに県費補助金の交付を受けて行った。

3　市内の確認調査については、秋田市教育委員会文化振興室が担当し、寺内地区の調査については秋田城跡調査事務所が行った。

4　本書の執筆は、各調査担当者が行い、神田が編集した。

5　出土遺物及び記録類は、秋田市教育委員会が一括して保管する。

6　調査にあたっては、文化庁記念物課、秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室よりご指導をいただいた。

凡　例

1　挿図の調査位置図については、主として秋田市都市計画図を使用し、一部事業関係で作成した図面を使用した。

2　挿図の縮尺と方位は不統一であり、各図ごとに縮尺・スケールと方位を示した。図中の方位は真北を示している。

3　遺物の実測図はそれぞれ示した。写真図版は、原則として約１／３とし、それ以外のものは縮尺を特記した。

4　挿図の中には下記の記号を用いた。

　トレンチ―Ｔ　（調査地第１号トレンチについては１Ｔと表記）

　礫―Ｓ

調査体制

調査担当者　秋田市教育委員会

調査体制　秋田市教育委員会文化振興室

文化振興室　室　長　小松正夫

室長補佐　松尾由美子

文化財担当

主席主査　安田忠市

主　事　伊藤武士

主　事　中川宏行

主　事　神田和彦

主　事　小野隆志

目　次

序
例　言
凡　例
調査体制

第１章　事業の概要 …… 1

第２章　調査の記録

1　広面地区店舗建築工事予定地 …… 3

2　四ツ小屋地区無線基地局建設工事予定地 …… 4

3　飯島穀丁地区宅地分譲事業予定地 …… 6

4　上新城地区ポンプ場建設事業予定地（上新城中学校遺跡） …… 8

5　蛇野遺跡（手形地区共同住宅建設事業予定地） ……12

6　下新城西部地区圃場整備事業予定地 ……14

7　秋田城跡（将軍野地区住宅解体工事予定地） ……17

8　久保田城跡（千秋明徳地区学校建設工事予定地） ……18

9　下新城地区老人ホーム増設事業予定地 ……27

10　金足地区知的障害者施設建設事業予定地 ……29

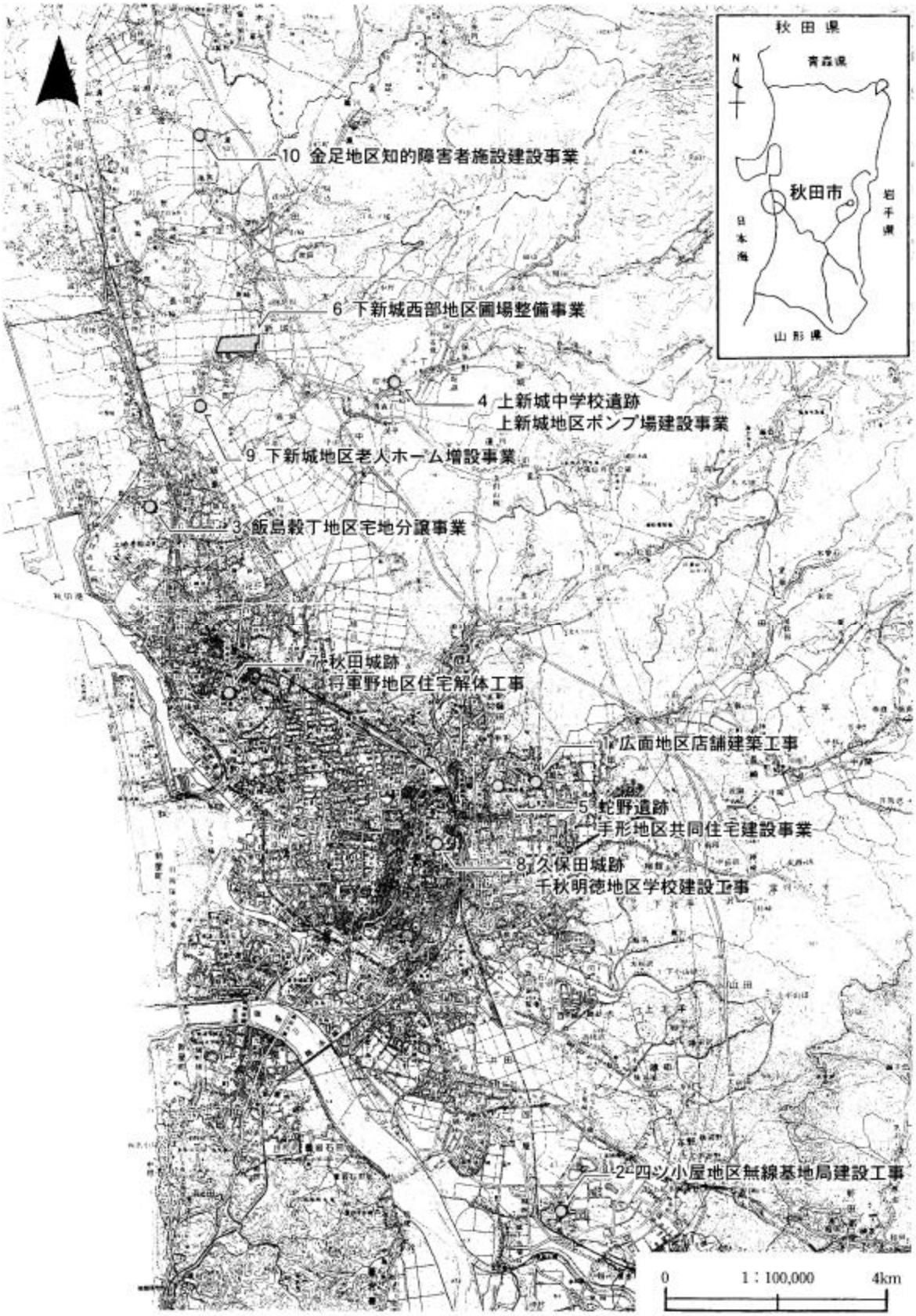
第１章　事業の概要

秋田市は、秋田県のほぼ中央部、日本海に面する秋田平野に位置している。市内には旧石器時代から近世までの遺跡が存在しており、秋田市では埋蔵文化財の保護と開発事業に適切に対処するため、昭和61年から63年にかけて国庫補助事業として市内全域の分布調査を実施している。その後の遺跡の追加も含め、374箇所の遺跡が確認されている。

平成14年度は、周知の埋蔵文化財包蔵地または遺跡存在可能性地における公共事業や民間の開発事業などについて、事前の事業照会と協議、分布調査による確認を経て、詳細な把握が必要な下記の箇所について試掘調査を実施した。なお、本書には平成14年２月から平成14年12月までに行った調査について掲載した。

試掘調査実施一覧表

No	事業名・遺跡名	所在地	事業主体	事業概要
1	広面地区店舗建築工事	広面字近藤堰越	株式会社　横浜ファーマシー	店舗建築
2	四ツ小屋地区無線基地局建設工事	四ツ小屋小阿地字坂ノ上	KDDI株式会社　au東北支社	無線基地局建設
3	飯島穀丁地区宅地分譲事業	飯島穀丁	アイホームプラザ 株式会社	宅地分譲
4	上新城地区ポンプ場建設事業・上新城中学校遺跡	上新城五十丁字小林	秋田市水道局	ポンプ場建設
5	手形地区共同住宅建設事業・蛇野遺跡	手形字大沢	個人	共同住宅建設
6	下新城西部地区圃場整備事業	下新城笠岡字堰場ほか	秋田県秋田総合農林事務所	圃場整備
7	将軍野地区住宅解体工事・秋田城跡	将軍野南一丁目	個人	住宅解体
8	千秋明徳地区学校建設工事・久保田城跡	千秋明徳町	学校法人　敬愛学園	学校建築
9	下新城地区老人ホーム増設事業	下新城笠岡字川向ほか	社会福祉法人　秋田中央福祉会	老人ホーム増設
10	金足地区知的障害者施設建設事業	金足浦山字岩崎	社会福祉法人　(仮称)愛心会	知的障害者施設建設


秋田県
青森県
N
秋田市
岩手県
日本海
山形県
10 金足地区知的障害者施設建設事業
6 下新城西部地区圃場整備事業
4 上新城中学校遺跡
上新城地区ポンプ場建設事業
9 下新城地区老人ホーム増設事業
3 飯島穀丁地区宅地分譲事業
7 秋田城跡
将軍野地区住宅解体工事
1 広面地区店舗建築工事
5 蛇野遺跡
手形地区共同住宅建設事業
8 久保田城跡
千秋明徳地区学校建設工事
2 四ツ小屋地区無線基地局建設工事
0
1：100,000
4km

第１図　市内調査位置図

第２章　調査の記録

１　広面地区店舗建築工事予定地（遺跡存在可能性地）

１　調 査 地　　秋田市広面字近藤堰越43-1ほか

２　調査期日　　平成14年２月19日

３　調査面積　　61.2㎡（調査対象面積4,551.75㎡）

４　起因事業　　店舗建築工事

５　調査に至る経緯

株式会社横浜ファーマシーは、広面字近藤堰越に店舗建築工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成14年２月６日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

６　立地と現況

工事予定地は秋田市街地の東側、手形山台地西側に接している沖積地にあり、標高９ｍの地点である。現況は宅地と水田である。周辺には、「蛇野遺跡」（縄文・奈良・平安・中世）、「柳沢遺跡」（縄文）、「桜田邸内遺跡」（縄文）などの手形山台地周辺に立地する周知の遺跡が所在することから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

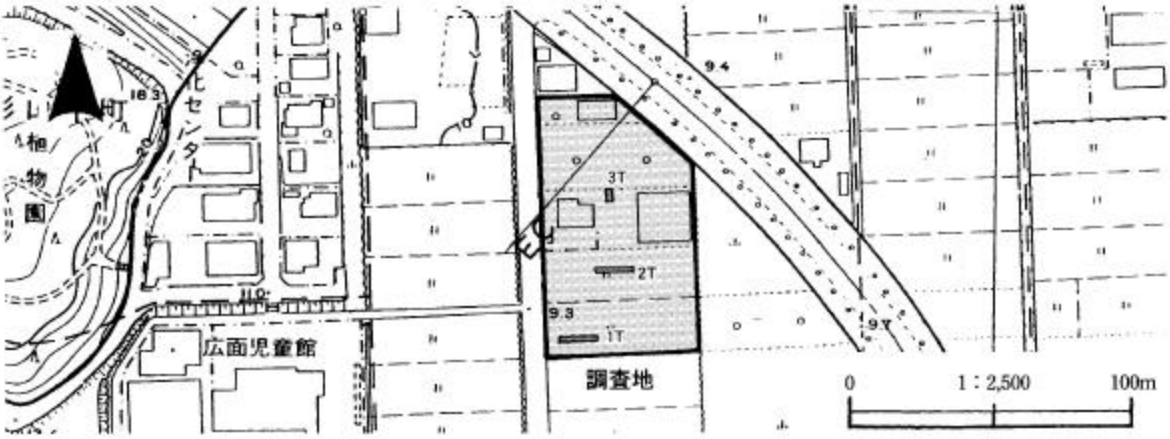
７　調査の概要及び結果

調査は、工事予定地に東西方向に幅1.8ｍのトレンチを３本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 褐色土(耕作土、10～15cm)、第Ⅱ層 白色小礫が混じる青灰色土（造成土、10～15cm)、第Ⅲ層 青灰色土と植物遺体が混じる暗褐色土(第Ⅱ層と第Ⅳ層の漸移層、５～10cm)、第Ⅳ層 植物遺体が混じる暗褐色土(地山)である。第３号トレンチでは、第Ⅱ層が黄褐色砂(宅地造成土、20cm)、第Ⅲ層が青灰色粘質土(宅地造成土、170cm)、第Ⅳ層が植物遺体が混じる暗褐色土(地山)となる。

調査の結果、調査地の旧地形は湿地であると考えられ、遺構・遺物の発見はなかった。

以上のことから遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。　（調査担当：中川・神田）



第２図　広面地区店舗建築工事予定地調査位置図

2　四ツ小屋地区無線基地局建設工事予定地（遺跡存在可能性地）

1　調 査 地　　秋田市四ツ小屋小阿地字坂ノ上246-1

2　調査期日　　平成14年７月19日

3　調査面積　　45㎡（調査対象面積 300㎡）

4　起因事業　　無線基地局建設工事

5　調査に至る経緯

ＫＤＤＩ株式会社ａｕ東北支社は、四ツ小屋小阿地字坂ノ上に無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成14年７月３日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は秋田市の南部、御所野台地西側の段丘面にあり、標高約33ｍの地点である。現況は畑地となっており、東側は造成された宅地である。周辺には、南西側隣接地に坂ノ下Ⅱ遺跡（縄文・奈良・平安）、北側には坂ノ上Ｂ遺跡（縄文）、南東側には狸崎Ａ遺跡（縄文・弥生）、狸崎Ｂ遺跡（旧石器・縄文・弥生）が所在していることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

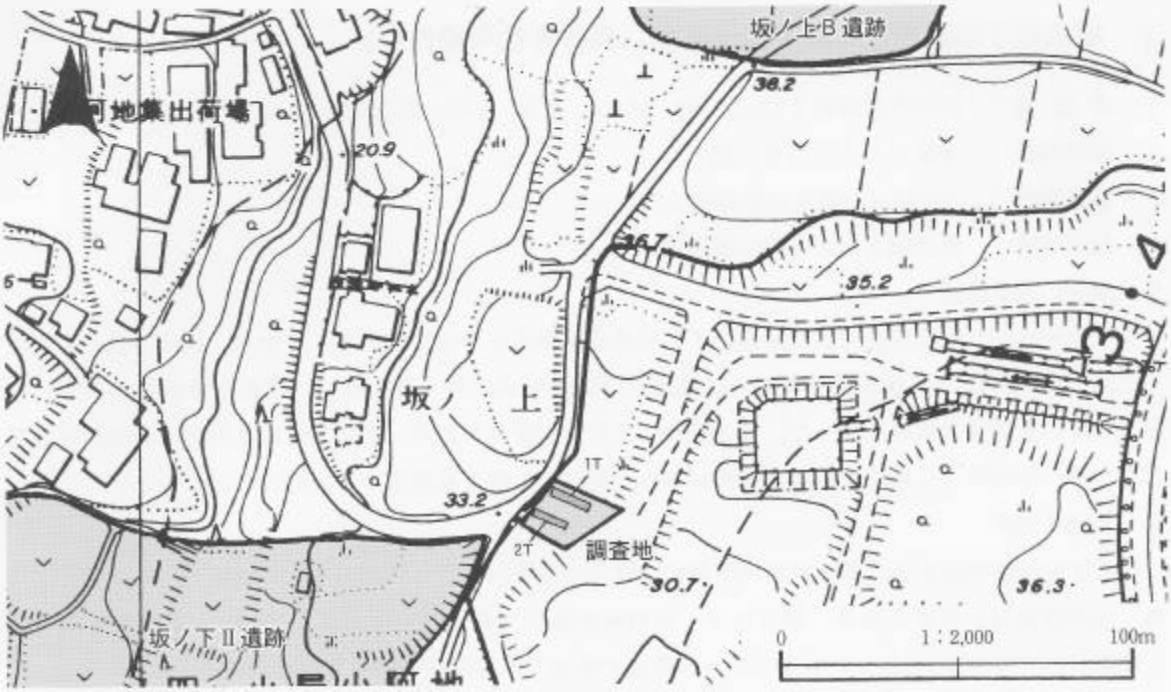
調査は、工事予定地に東西方向に平行する幅２ｍのトレンチを２本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 褐色土（耕作土、15～20㎝）、第Ⅱ層 黄褐色粘土と明褐色粘土が混じる黒褐色土（造成土、10～55㎝）、第Ⅲ層 明褐色粘土が若干混じり、径２㎝程度の白色礫が混じる黒色土（造成土、15～90㎝）、第Ⅳ層 明褐色粘土（地山）である。第Ⅱ層・第Ⅲ層は、東側へいくに従って厚く堆積している。第２号トレンチ東側では第Ⅱ'層として黒褐色土が若干混じる明黄褐色土（造成土、15㎝）が第Ⅱ層と第Ⅲ層の間に確認された。また、第２号トレンチ東側では、第Ⅲ層の最下層部は水分を多く含み、木根が混入し、第Ⅳ層はグライ化し青灰色を呈していた。

調査の結果、調査地は北西側から南東側に傾斜しており、旧地形は沢地に面した台地の端部であることが確認された。地山面には遺構は確認されず、遺物も発見されなかった。

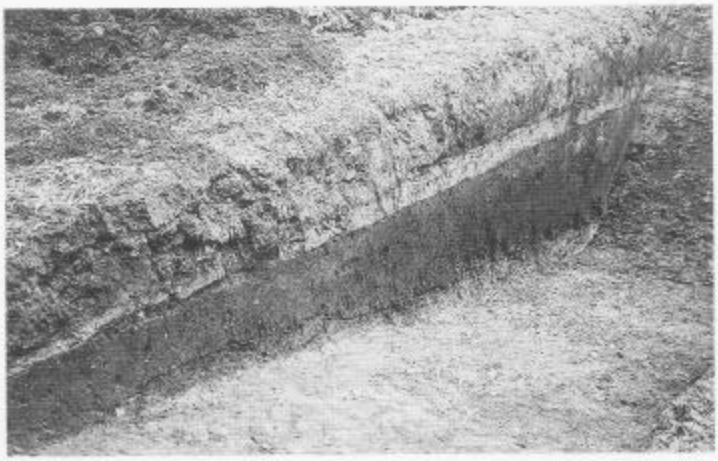
以上のことから遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：安田・伊藤・神田）



第３図　四ツ小屋地区無線基地局建設工事予定地調査位置図

調査地全景（北→）



第２号トレンチ土層状況（西→）

写真１

3　飯島穀丁地区宅地分譲事業予定地（遺跡存在可能性地）

1　調 査 地　　秋田市飯島穀丁33-10の内、33-17、34-5、35-2、37-2の内、411-1

2　調査期日　　平成14年７月24日～25日

3　調査面積　　184.65㎡（調査対象面積 2,372.16㎡）

4　起因事業　　飯島穀丁地区宅地分譲事業

5　調査に至る経緯

アイホームプラザ株式会社は、飯島穀丁に宅地分譲事業を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成14年７月10日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、事業予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は秋田市の北部、新城川左岸の小砂丘の裾野にあり、標高約６ｍの地点である。現況は宅地、公衆用道路、原野である。周辺には、西側隣接地に「雲祥院宝篋印塔」（中世）、北西側には「穀丁遺跡」（中世）が所在していることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

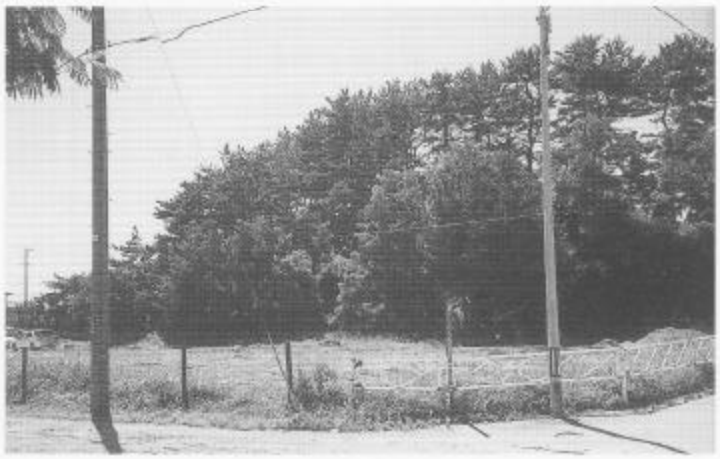
調査は、事業予定地に南北方向に平行する幅1.5ｍのトレンチを４本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 暗褐色土（表土、10～30㎝）、第Ⅱ層 アスファルト片・砕石・コンクリート片の混じる褐色土（造成土、30～110㎝）、第Ⅲ層 黄褐色砂（地山飛砂層）である。第２号トレンチでは、第Ⅱ層と第Ⅲ層の間に第Ⅱ'層として、砕石を含む黒褐色土がブロック状に混じる褐色砂（造成土、20～30㎝）が確認された。また、第３号トレンチ南半では、第Ⅲ層中に第Ⅲ'層として黄褐色砂の混じる黒褐色砂（旧表土、10㎝）が確認された。第Ⅲ'層は第３号トレンチ南半にのみ確認されることから、調査地は西側から南東側に傾斜しており、南東隅は削平や造成を受けず、旧表土が遺存していたと考えられる。土層の状況などから、調査地は西側から南東側に大きく削平・造成が行われていると考えられ、遺物包含層は確認されず、地山面から遺構は確認されなかった。また、第３号トレンチで約２ｍの深掘りを行ったが、地山飛砂層下に遺構・遺物の発見はなかった。

以上のことから遺構・遺物は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：伊藤・神田）

第４図　飯島穀丁地区宅地分譲事業予定地調査位置図



調査地全景（北東→）

第１号トレンチ調査状況（南→）

写真２

4　上新城地区ポンプ場建設事業予定地（上新城中学校遺跡）

1　調 査 地　　秋田市上新城五十丁字小林188、189地内

2　調査期日　　平成14年７月30～31日

3　調査面積　　発掘調査面積18.33㎡（調査対象面積 20㎡）

4　起因事業　　ポンプ場建設事業

5　調査に至る経緯

秋田市水道局は、上新城五十丁字小林にポンプ場建設事業を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成14年７月15日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、事業予定地は隣接地に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は秋田市の北部、上新城丘陵の河岸段丘上にあり、標高約35ｍの地点である。現況は山林である。周辺には、南西側に「上新城中学校遺跡」（縄文）が隣接し、遺跡の存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

事業予定地は20㎡と小規模であることから、全面を試掘調査対象とし、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 黒褐色土（表土、10～20cm）、第Ⅱ層 礫の混じる暗褐色土（造成土、20～35cm）、第Ⅲ層 礫が多く混じる黒褐色土（遺物包含層、10cm）、第Ⅳ層 明黄褐色粘土（地山）である。第Ⅳ層上面は北側から南側に傾斜し、第Ⅲ層は調査地南側にのみ堆積していた。

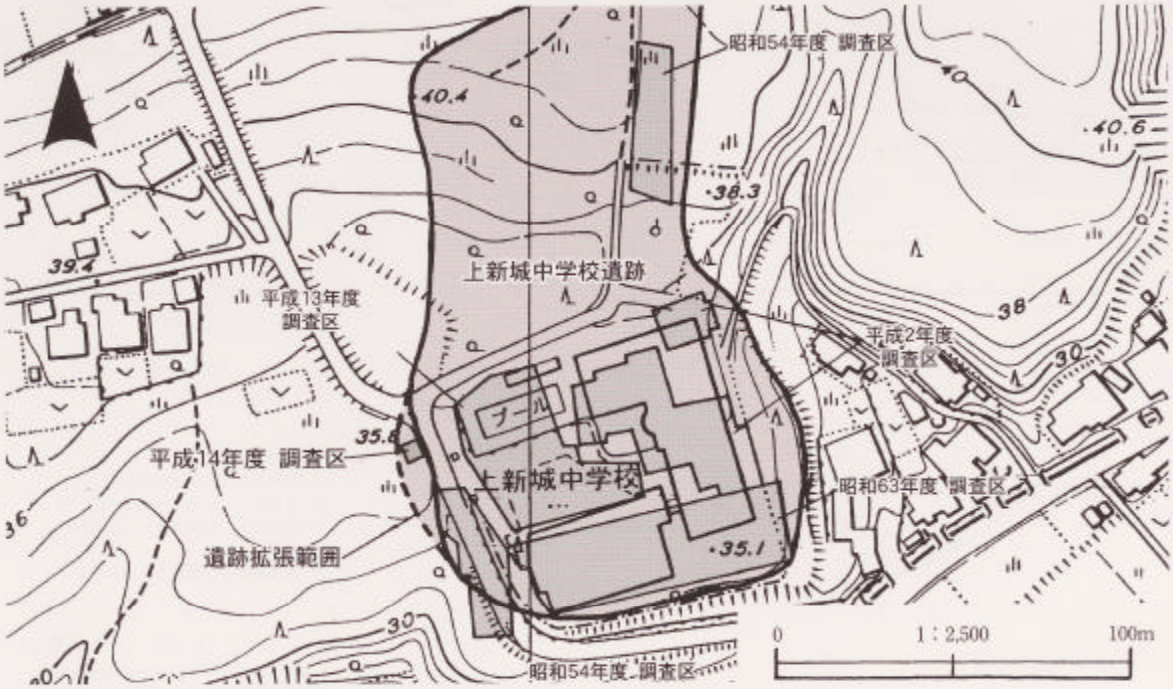
遺構は、土坑１基、ピット７基を確認した。遺構の確認面は、１号土坑・ピット１・ピット２は第Ⅲ層上面であり、その他の遺構は第Ⅳ層（地山）上面であった。１号土坑・ピット１・ピット２の埋土からは、縄文時代晩期と考えられる土器片が数点出土した。また、１号土坑からは頁岩製の石器剥片が出土した。

その他の遺物は、第Ⅱ層、第Ⅲ層から土器片、石器（石鏃１点と剥片が数点）が出土した。第Ⅱ層出土の土器片（第８図　２）には平行沈線が施され、縄文時代晩期前葉から中葉（大洞Ｂ～C_2式）と考えられる。その他の土器片も胎土や縄文の縄目等から縄文時代晩期のものと考えられる。また、第Ⅲ層に多量に認められる礫は径５～20cm程度の大きさであり、人工的な加工や意図的に配置している形跡は認められなかった。

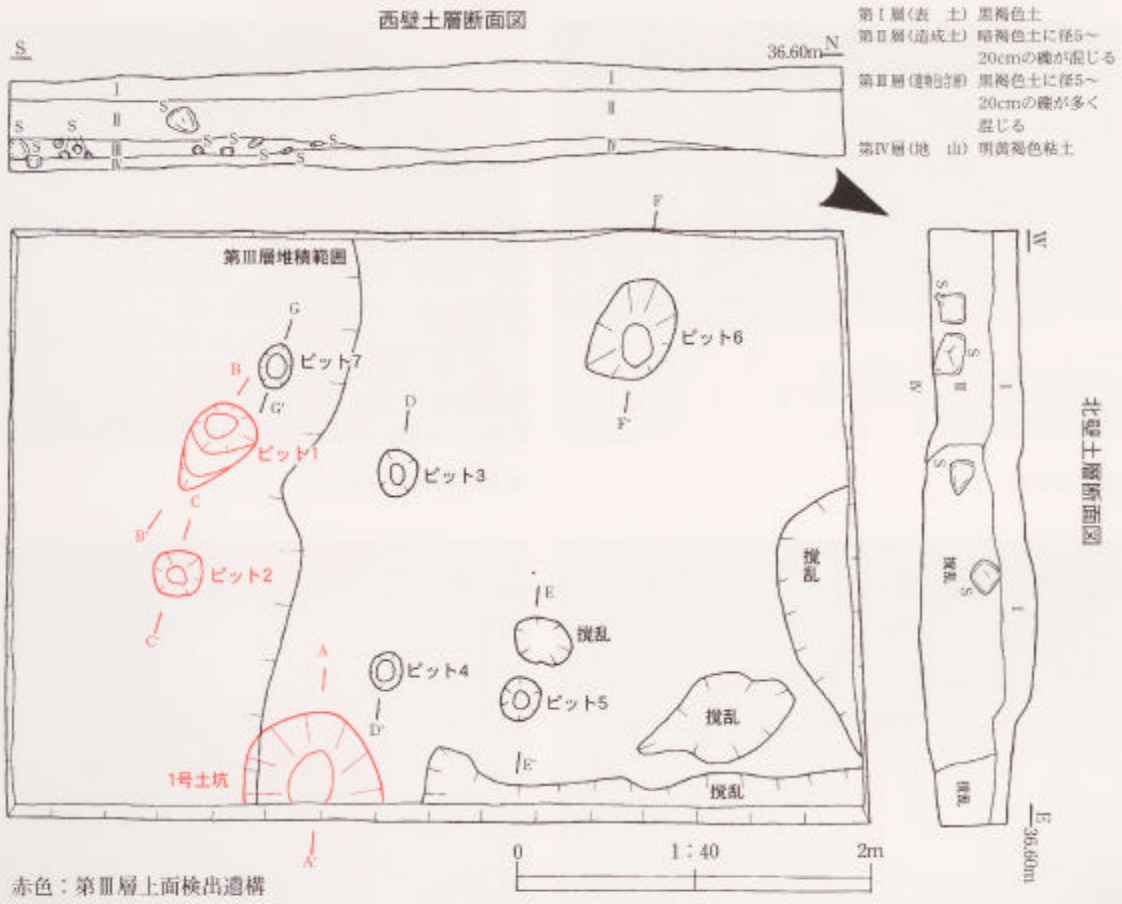
調査の結果、調査地からは少量の遺構と遺物が発見され、隣接する上新城中学校遺跡（縄文時代晩期の集落跡）の広がりと考えられる。

以上のように、事業予定対象区域全面を確認調査した段階で、検出された遺構・遺物を記録保存した。

（調査担当：安田・伊藤・神田）

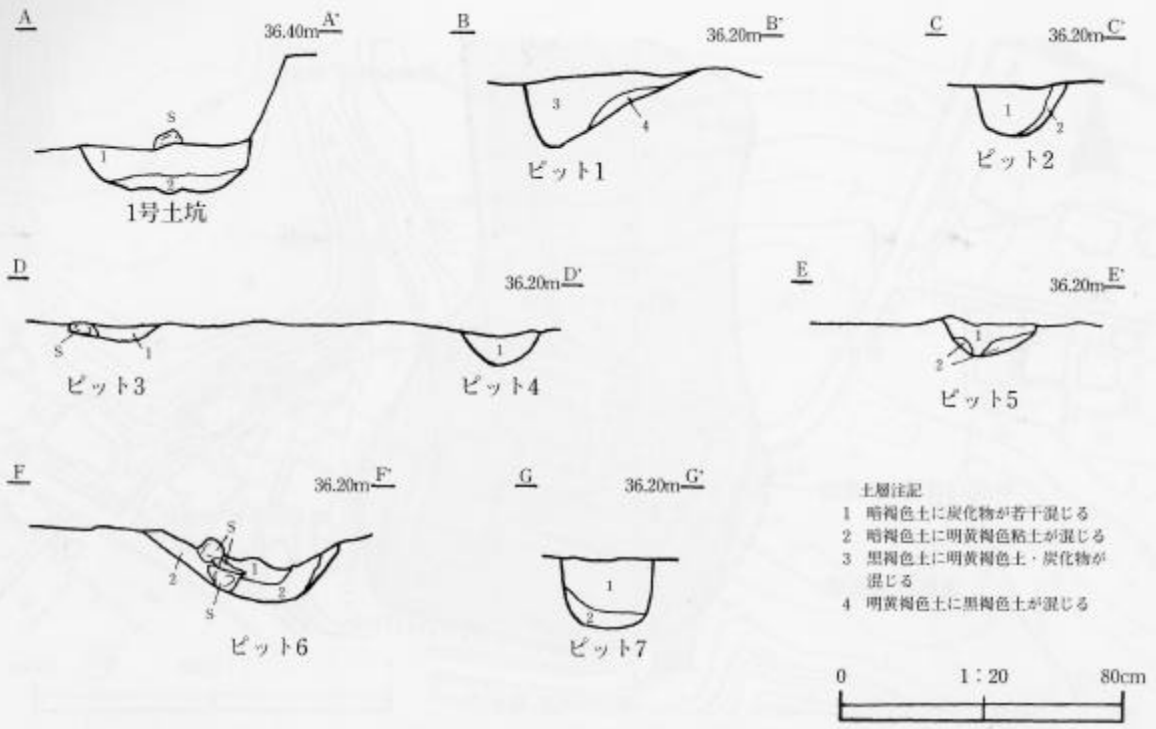


第５図　上新城地区ポンプ場建設事業予定地調査位置図



赤色：第Ⅲ層上面検出遺構

第６図　調査地全体図および土層断面図



第７図　検出遺構土層断面図

調査地全景（西→）

遺構完掘状況（北→）

東壁土層状況（西→）

１号土坑土層状況（南→）

写真３

第８図　出土遺物

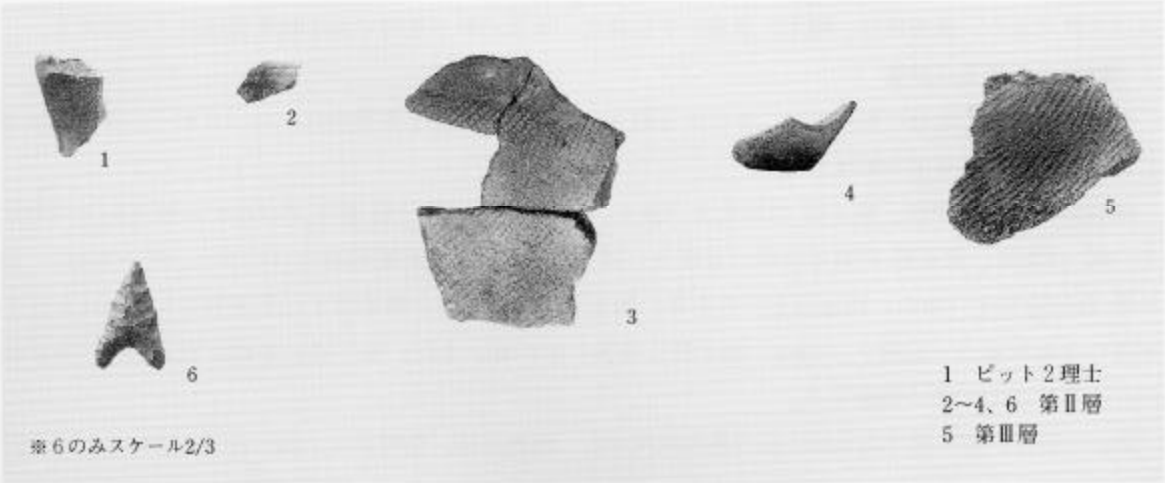


写真４　出土遺物

表１　出土遺物観察表

No	出土位置	分　類	器種等	年　代	特　記　事　項
1	ピット２埋土	縄文土器	鉢	縄文時代晩期	体部破片。胎土は良質であり、雲母片が多く含まれる。
2	第Ⅱ層	縄文土器	鉢	縄文時代晩期前葉～中葉	口縁部破片。平行沈線が２本施される。大洞Ｂ～C_2式。
3	第Ⅱ層	縄文土器	深鉢	縄文時代晩期	体部破片。縄文原体はＬＲで横位に施文。
4	第Ⅱ層	縄文土器	鉢	縄文時代晩期	底部破片。底径4.8cm。縄文原体はＬＲで縦位に施文。外面は摩滅している。
5	第Ⅲ層	縄文土器	鉢	縄文時代晩期	体部破片。沈線が１本が確認できる。縄文原体はＬＲで横位に施文。
6	第Ⅱ層	石器	石鏃	縄文時代晩期	無茎。頁岩製。ａ面左側縁・基部抉り部分、ｂ面左側縁に打点の残る剥離痕が集中する。阿部分類（阿部1982）のＬ型に当たる。

参考文献：阿部祥人　1982　「剥離痕による石鏃の分析－試論－」『東京都埋蔵文化財センター研究論集Ⅰ』pp.１～16

5　蛇野遺跡（手形地区共同住宅建設事業予定地）

1　**調 査 地**　　秋田市手形字大沢44-15

2　**調査期日**　　平成14年10月24日

3　**調査面積**　　121.8㎡（調査対象面積 997.4㎡）

4　**起因事業**　　共同住宅建設事業

5　**調査に至る経緯**

秋田市手形字蛇野の個人より、蛇野遺跡が所在する手形字大沢に共同住宅建設事業を予定していることから開発に伴う事前協議があり、平成14年10月10日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼および埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第57条２第１項）があった。これを受けて秋田市教育委員会は分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6　**立地と現況**

事業予定地は秋田市街地の北東側、手形山台地の西側緩斜面にあり、標高約60ｍの地点である。現況は原野である。調査地は、縄文・奈良・平安時代・中世の複合遺跡である蛇野遺跡内に所在する。

7　**調査の概要及び結果**

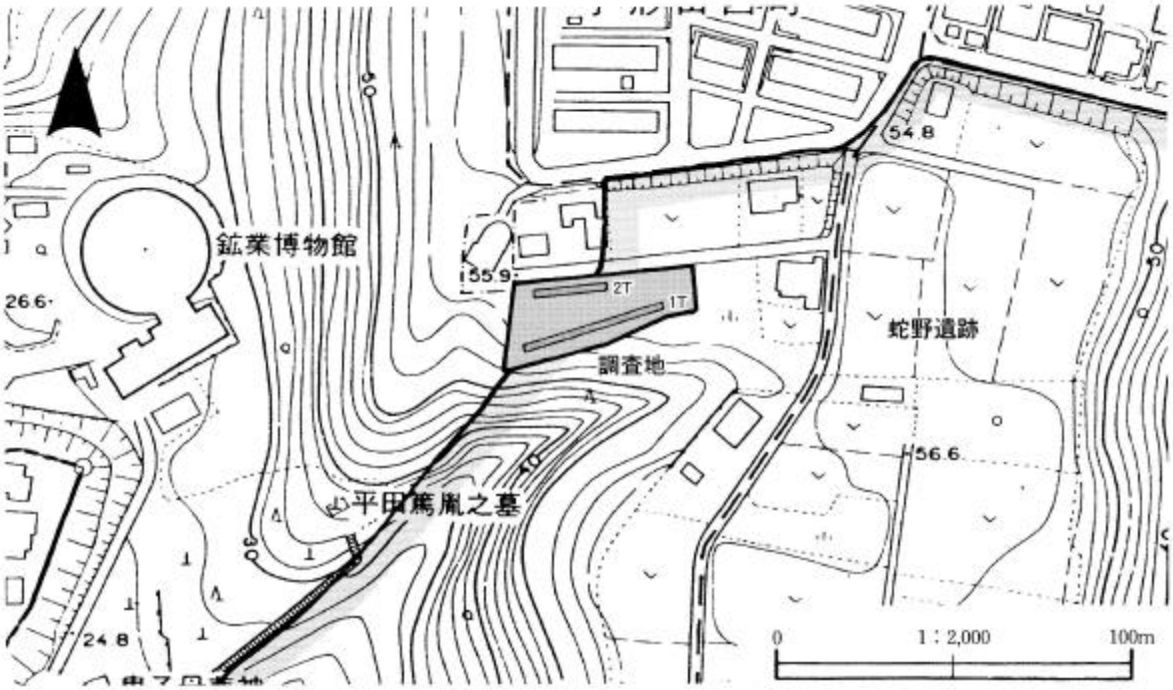
調査は、事業予定地に東西方向に平行する幅２ｍのトレンチを２本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 黒褐色土（表土、15～45cm）、第Ⅱ層 砕石等の混じる暗褐色土（造成土、40～60cm）、第Ⅲ層 明黄褐色砂（造成土、10～40cm）、第Ⅳ層 暗褐色土（旧表土、15～40cm）、第Ⅴ層 黄褐色粘土（地山、10cm以上）である。第２トレンチでは、第Ⅱ層下に第Ⅲ層として青灰色粘土が混じる褐色粘土（造成土、10cm）が東側に堆積している。また、第Ⅳ層は堆積しておらず、第Ⅲ層の下に第Ⅴ層 地山面が堆積する。

調査の結果、第Ⅴ層である地山面の検出状況から、旧地形は、北側から南側に傾斜していることが確認された。また、南側は、中央部が高くなっており、中央部から東西に傾斜していることが確認された。遺物は、第１号トレンチ第Ⅳ層で、土器片（縄文土器、詳細時期不明）１点の出土があったが、同じ第Ⅳ層では、ビニール製品も出土していることから、以前の土地造成時の混入と判断した。遺物包含層は確認されず、遺構の発見もなかった。

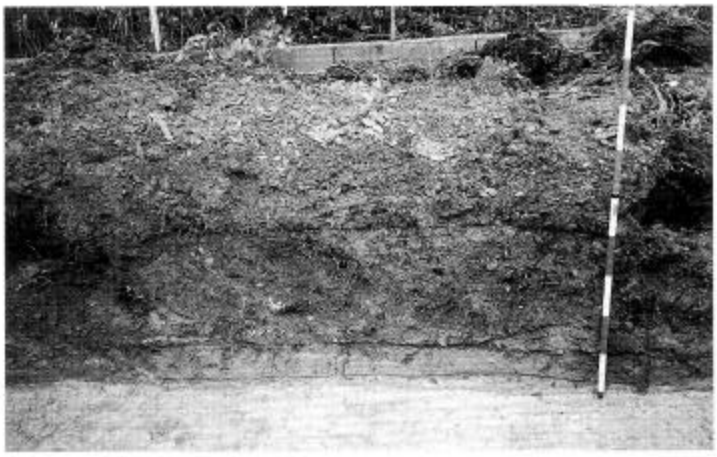
以上のことから調査地には、以前の造成時に混入した遺物が１点発見されたが、遺物包含層は確認されず、また、遺構も発見されないことから、調査地内の発掘調査は必要ないと判断した。

（調査担当：安田・伊藤・神田）



第９図　蛇野遺跡調査位置図

調査地全景（東→）



第１号トレンチ土層状況（北→）

写真５

6　下新城西部地区圃場整備事業予定地（遺跡存在可能性地）

1　調 査 地　　秋田市下新城笠岡字堰場ほか

2　調査期日　　平成14年11月５日～９日

3　調査面積　　614.2㎡（調査対象面積 322,500㎡）

4　起因事業　　下新城西部地区担い手育成基盤整備事業（圃場整備事業）

5　調査に至る経緯

秋田県秋田総合農林事務所は、下新城西部地区一帯（下新城長岡・青崎・小友・岩城・笠岡・中野）の水田に担い手育成基盤整備事業として平成12～14年度に引き続いて平成15年度にも大規模な圃場整備を予定していることから、秋田市教育委員会との間で事前協議を行った。協議の結果、平成14年９月19日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。周辺の確認調査や分布調査による現況確認の結果、事業予定地は周辺に遺跡が存在することや地形等から、遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は秋田市の北部、新城川中流域北側の沖積地にあり、標高約10mの地点である。現況は水田である。北側には長岡遺跡（古代）、熊野田遺跡（縄文・古代）が、西側には乳倉遺跡（古代）、鳴下り遺跡（古代）、雀島遺跡（古代）、佐戸反遺跡（古代）が島状に点在し、南側の丘陵には岩城館（中世）、笠岡館（中世）が所在することから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

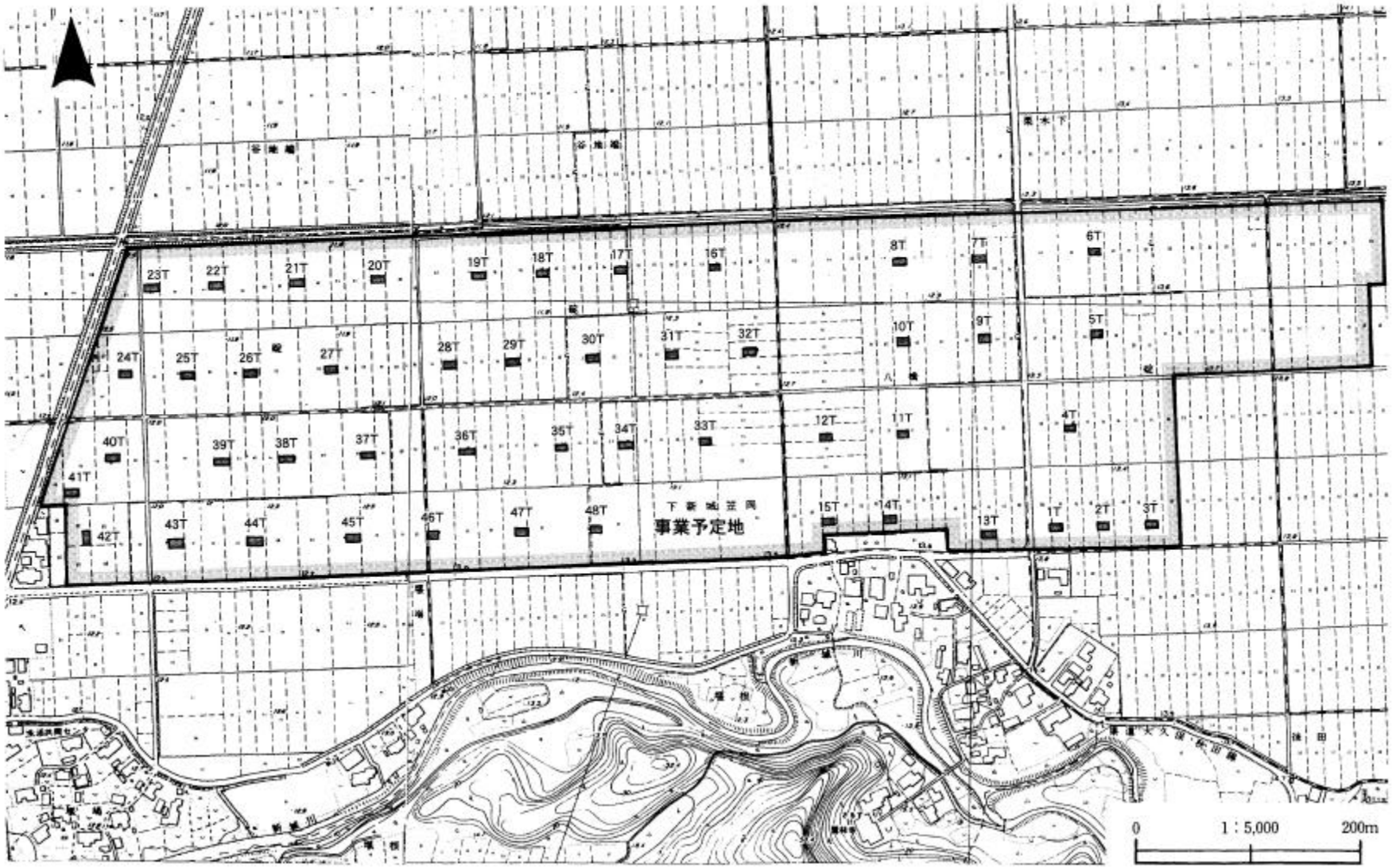
調査は、事業予定地に東西方向に平行する幅1.8m、長さ４～９mのトレンチを48本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 褐色土（表土、10～20cm）、第Ⅱ層 灰褐色土（造成土、20～40cm）、第Ⅲ層 褐灰色土（造成土、20～50cm）、第Ⅳ層 白色小礫の混じる暗褐色土（造成土、20～50cm）、第Ⅴ層 褐色土の混じる植物遺体層である。第Ⅱ層は、調査地北側（第８、16号トレンチなど）では、青灰色を呈する場合がある。また、調査地南側（第13、14、15号トレンチ）および西側（第40、41、42号トレンチ）では、第Ⅴ層は植物遺体の混じる青灰色粘土であり、植物遺体の堆積が少い。なお、第Ⅱ層～Ⅳ層は昭和20年代の圃場整備の際の造成土であると考えられる。

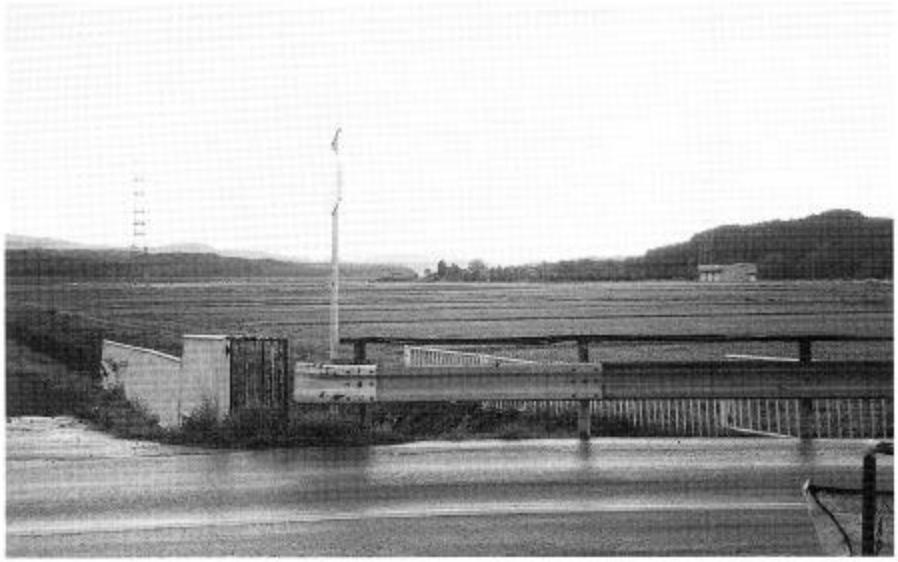
調査の結果、第２号トレンチの第Ⅲ層で中世陶器（珠洲系陶器）１点、第38号トレンチの第Ⅳ層で近世磁器１点が出土したが、いずれも造成土からの出土であることから、昭和20年代の圃場整備の際の流れ込みと判断した。また、遺物包含層・遺構は確認されなかった。

以上のことから遺構・遺物包含層は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：安田・伊藤・神田）

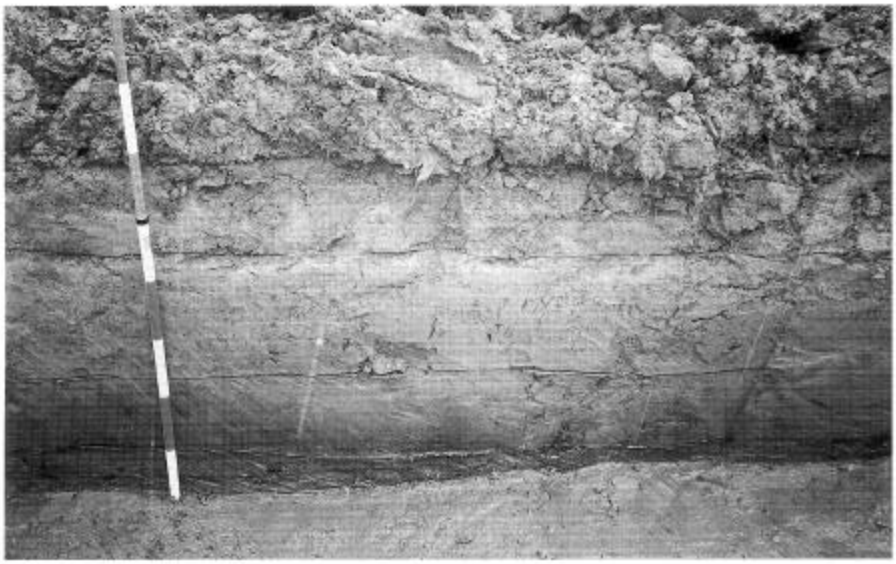


第10図　下新城西部地区圃場整備事業予定地調査位地図



調査地全景（北東→）

第14号トレンチ
調査状況（西→）



第14号トレンチ
土層状況（北→）

写真 6

7　秋田城跡（将軍野地区住宅解体工事予定地）

1　調 査 地　　秋田市将軍野南一丁目178-19

2　調査期日　　平成14年11月15日～18日

3　調査面積　　22.3㎡（調査対象面積 271.04㎡）

4　起因事業　　住宅解体工事

5　調査に至る経緯

秋田市南通みその町の個人は、史跡「秋田城跡」が所在する将軍野南一丁目に住宅解体工事を予定していることから、開発に伴う事前協議があり、平成14年10月30日付けで秋田市教育委員会に史跡名勝天然記念物現状変更等許可の申請があった。これを受けて秋田市教育委員会は、平成14年10月31日付け秋市教指令第158号により発掘調査を条件として許可し、平成14年11月１日付けで事前調査の依頼があった。これを受けて秋田市教育委員会は発掘調査を実施した。

6　立地と現況

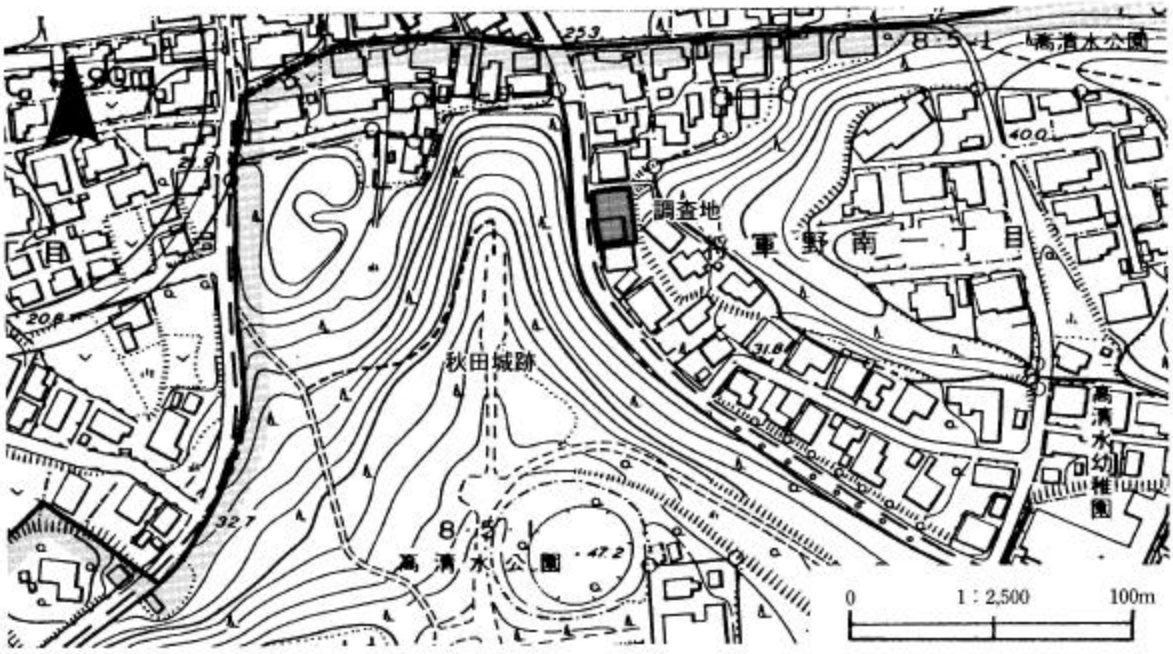
工事予定地は、秋田市街地の北西側、高清水丘陵の北側にあり、標高約30mの地点である。現況は宅地である。調査地は国指定史跡「秋田城跡」に位置し、外郭北辺から南東に約20mの地点である。調査地東側の第16次調査および北西側の第43次調査では築地塀、溝状遺構、櫓状建物等が検出されている。

7　調査の結果

調査の結果、調査地は造成等により大きく削平や撹乱を受けていると考えられ、遺構は確認されなかった。

以上のことから、住宅解体後における擁壁築造、切土・盛土等の造成工事に伴う現状変更による影響はないと判断した。

（調査担当：西谷・進藤）



第11図　秋田城跡調査位置図

8　久保田城跡（千秋明徳地区学校建設工事予定地）

1　調 査 地　　秋田市千秋明徳町204-21、205-14

2　調査期日　　平成14年11月18日～19日

3　調査面積　　57.5㎡（調査対象面積 553.03㎡・建築予定面積 211.25㎡）

4　起因事業　　学校建設工事

5　調査に至る経緯

学校法人敬愛学園は、久保田城跡が所在する千秋明徳町に学校建設工事を予定していることから、開発に伴う事前協議があり、平成14年９月30日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼および埋蔵文化財発掘の届出（文化財保護法第57条２第１項）があった。これを受けて秋田市教育委員会は分布調査による現況確認と試掘による範囲確認調査を実施した。

6　立地と現況

工事予定地は、秋田市街地の中央部、千秋公園台地の南側にあり、標高約７ｍの地点である。現況は宅地である。調査地は近世城郭である久保田城跡内に位置し、外堀内側の旧下中城町に位置する。

7　調査の概要及び結果

調査は、建物の基礎掘削による影響が及ぶ範囲に合わせ、幅1.4ｍのトレンチを南北・東西に２本、さらに必要に応じて西側に拡張して、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 暗褐色土（造成土、15～20㎝）、第Ⅱ層 黄褐色土（造成土、20～30㎝）、第Ⅲ層 鈍い青灰色土（造成土、20～40㎝）、第Ⅳ層 暗褐色土（造成土、５㎝）、第Ⅴ層 砂礫の混じる青灰色粘土（地山）である。第Ⅳ層は、南北トレンチ南側では、暗褐色土の混じる青灰色土（造成土、20㎝）となっていることから、第Ⅳ'層とした。第Ⅰ層～第Ⅳ層からはガラス片・レンガ・コンクリート等が出土し、近・現代の造成土と考えられる。

南北トレンチの北側と東西トレンチの西側で、久保田城の内堀跡と考えられる遺構が検出された。内堀跡は調査地内で屈曲しており、東側から北側へのびることが確認された（第13図）。第Ⅴ層の地山面で検出され、埋土は、灰褐色土と黒褐色土の混じる暗褐色土（堀埋土１、10㎝）、灰褐色土と黒褐色土の混じる青灰色粘土（堀埋土２、70㎝）、植物遺体層（自然堆積層、15～20㎝）である。堀埋土２からガラス片、レンガブロックなどが出土し、近・現代において一時期に埋め立てたと考えられる。堀の深さは確認面（第Ⅴ層上面）から約80㎝で、護岸などの施設は認められなかった。

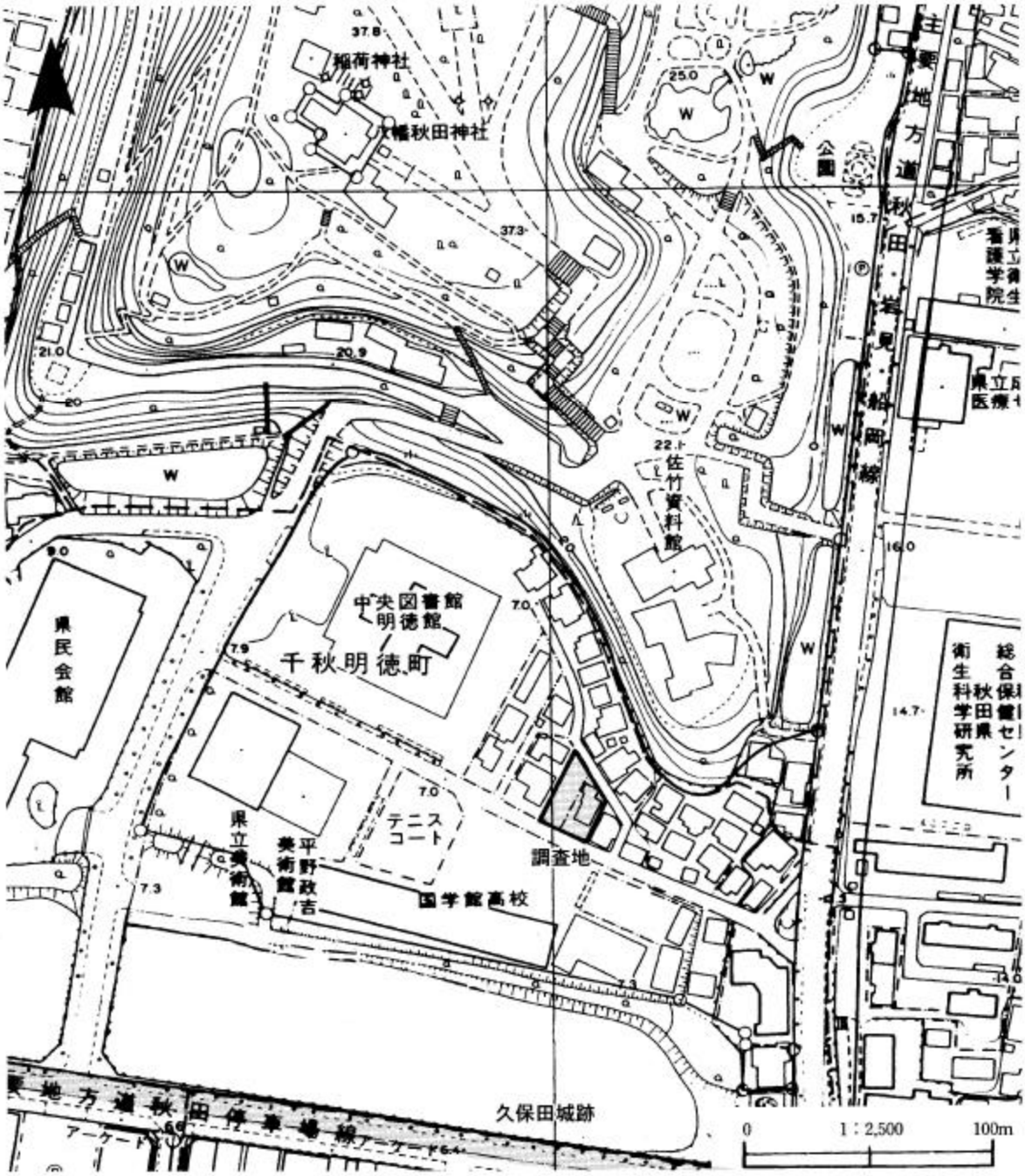
また、南北トレンチ南側では、東西方向に延びる沢状の落ち込みが確認された（第13図）。沢状落ち込みには、埋土が２層、堆積土が２層確認され、上層より青灰色礫が混じる鈍い青灰色土（沢埋土１、５～20㎝）、植物遺体が混じる黒褐色土（沢埋土２、20㎝）、黒褐色土の混じる植物遺体層（沢堆積土１、20㎝）、植物遺体と暗褐色土と小礫が混じる青灰色砂（沢堆積土２、20㎝以上）である。沢堆積土２の下にはさらに青灰色礫がブロック状に混じる植物遺体層（自然堆積層）が堆積し、無遺物層となっている。沢状落ち込みの岸辺付近では、沢堆積土１を中心として江戸時代前期の陶磁器（第15図４～７、写真７　４～７）や木製品（第15図８～10、第16図11～23、写真７　８～12、写真８　13～23）などが出土した。土層の堆積状況や出土遺物の年代から、この沢状落ち込みは久保田城築城以前からの旧地形であり、築城当初には調査地南東側から南西側には沢状の地形が存在していたと考えられる。そして、その沢状落ち込みの岸辺付近に江戸時代前期の遺物が廃棄されたものと考えられる。また、沢状落ち込

み埋土１、２の堆積年代は不明確であるが、江戸時代前期の可能性が考えられる。

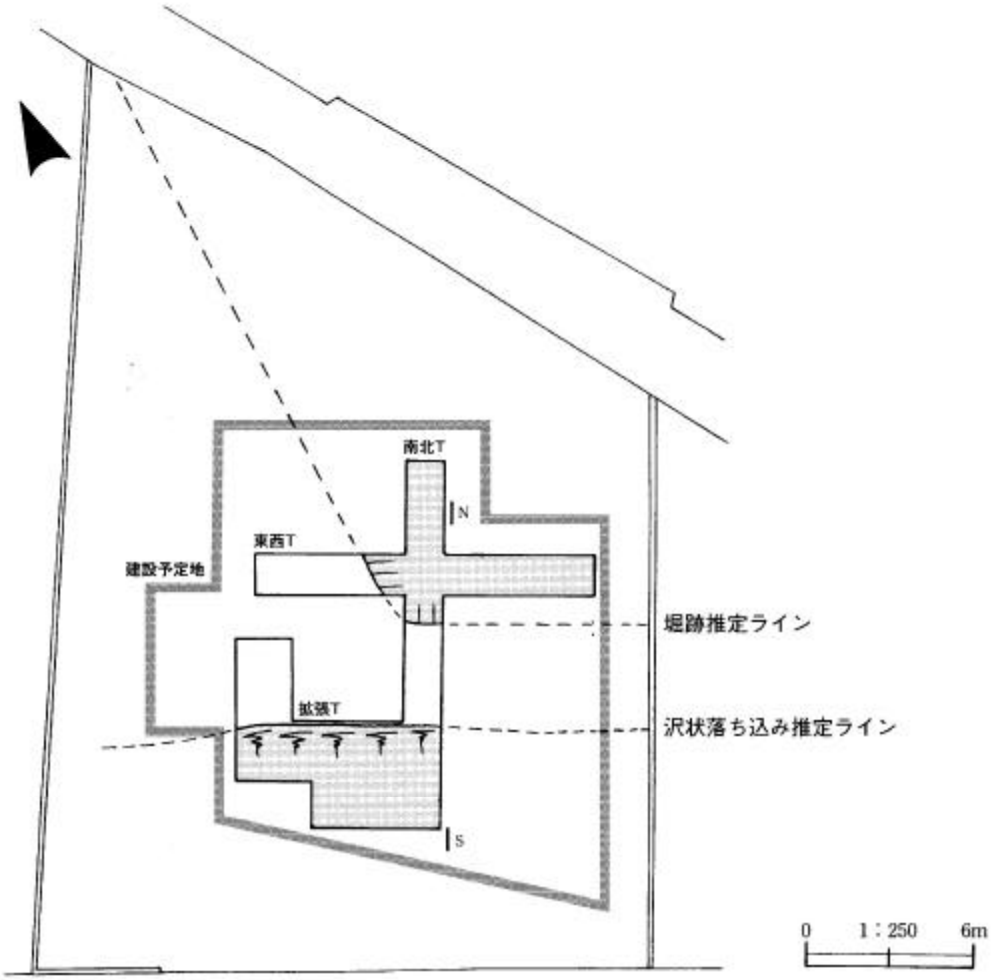
以上のように、調査地において内堀跡と沢状の旧地形が確認されたが、事前調査の範囲内で記録保存した。

なお、調査後の平成15年１月24日から27日にかけて基礎工事実施に伴う工事立会を行ったが、遺構・遺物包含層は確認されなかった。

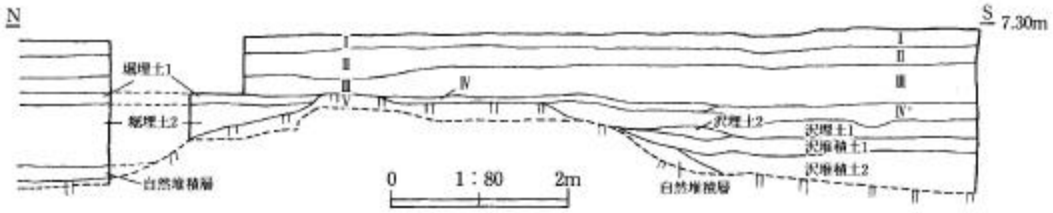
（調査担当：小松・安田・伊藤・神田）



第12図　久保田城跡調査位置図



第13図　調査地全体図



基本層序

第Ⅰ層（造成土）暗褐色土

第Ⅱ層（造成土）黄褐色土

第Ⅲ層（造成土）鈍い青灰色土

第Ⅳ層（造成土）暗褐色土

第Ⅳ'層（造成土）暗褐色土の混じる青灰色土

第Ⅴ層（地　山）砂礫の混じる青灰色粘土

堀　跡

堀 埋 土1　灰褐色土の混じる暗褐色土

堀 埋 土2　灰褐色土と黒褐色土の混じる青灰色粘土

自然堆積層　植物遺体層

沢状落ち込み

沢 埋 土1　青灰色礫が混じる鈍い青灰色土

沢 埋 土2　植物遺体が混じる黒褐色土

沢堆積土1　黒褐色土の混じる植物遺体層

沢堆積土2　植物遺体と暗褐色土と小礫が混じる青灰色砂

自然体積層　青灰色礫がブロック状に混じる植物遺体層

第14図　南北トレンチ東壁土層断面図

表2　出土遺物観察表

No	出土位置	分　類	器種等	生産地	年　代	編年区分	特　記　事　項
1	第Ⅰ層	磁器	染付丸碗	肥前系	18C	肥前Ⅳ期	外面に雪の輪と草花文を染付、底裏に「井」銘を染め付けている。
2	第Ⅰ層	磁器	染付小碗	肥前系	18C前半	肥前Ⅳ期	外面の口縁部に雨降り文を染め付けている。
3	第Ⅲ層	陶器	京焼風陶器碗	肥前系	17C後半	肥前Ⅲ期	緻密な胎土にやや透明感のある灰釉を内外面に掛け、細かい貫入が入る。
4	沢堆積土1	陶器	鉄絵皿	肥前系	17C初	肥前Ⅰ-2期	鉄釉による口縁部に2条の線、見込みに草文が認められる。高台は露胎であり、胎土目積み痕がある。
5	沢堆積土1	陶器	鉢	不明	不明	不明	素焼きであり、内面は摩滅しており円滑である。底面はケズリ調整しており、体部下端に下方からのケズリ調整が認められる。
6	沢堆積土1	陶器	京焼風陶器輪花皿	肥前系	17C後半	肥前Ⅲ期	灰色の緻密な胎土にやや透明感のある灰釉を内外面に掛け、細かい貫入が入る。高台内部は、無釉で丁寧な撫で調整によって仕上げられている。
7	沢堆積土1	陶器	灰釉碗	肥前系	17C後半	肥前Ⅲ期	胎土はやや荒く、オリーブ灰色の釉を掛け、細かい貫入が入る。
8	沢堆積土1	漆器	椀	－	－	－	外面は黒漆、内面は朱漆を塗布している。底裏に朱漆の点が認められる。高台は欠損しているが、痕跡が認められる。
9	沢堆積土1	木製品	下駄	－	－	－	角形連歯下駄。板目板を用いて心材方向に歯を作り出している。
10	沢堆積土1	木製品	下駄	－	－	－	角形連歯下駄。板目板を用いて木目方向に沿って歯を作り出している。
11	沢堆積土1	木製品	下駄	－	－	－	丸形連歯下駄。板目板を用いて心材方向に歯を作り出している。
12	沢堆積土1	木製品	下駄	－	－	－	角形連歯下駄。板目板を用いて辺材方向に歯を作り出している。
13	沢堆積土1	木製品	下駄	－	－	－	小型の丸形連歯下駄。板目材を用いて辺材方向に歯を作り出している。心持ち材である。
14	沢堆積土1	木製品	容器底板	－	－	－	容器底板であり、曲物の底板と考えられる。
15	沢堆積土1	木製品	ヘラ状木製品	－	－	－	基部は欠損している。
16	沢堆積土1	木製品	箸	－	－	－	－
17	沢堆積土1	木製品	箸	－	－	－	－
18	沢堆積土1	木製品	箸	－	－	－	－
19	沢堆積土1	木製品	箸	－	－	－	－
20	沢堆積土1	木製品	箸	－	－	－	基部は欠損している。
21	沢堆積土1	木製品	箸	－	－	－	－
22	沢堆積土1	木製品	折敷	－	－	－	方形に加工されており縁辺に竹釘を打ち込んだ小孔が認められる。また、絵を描いたような墨書が認められ、裏面には線状の細かな刻み痕跡が認められる。
23	沢堆積土1	木製品	板材	－	－	－	薄い板材に「御屋扇」の墨書が認められる。

凡例

1　陶磁器の生産地については主要な大規模生産地に関し、その生産地産のものを主として、それに直接的な技術的影響をうけた周辺及び地方の窯のものも含め「系」として示した。

2　肥前系の編年区分については、陶器及び磁器ともに大橋編年の時期区分を示す。

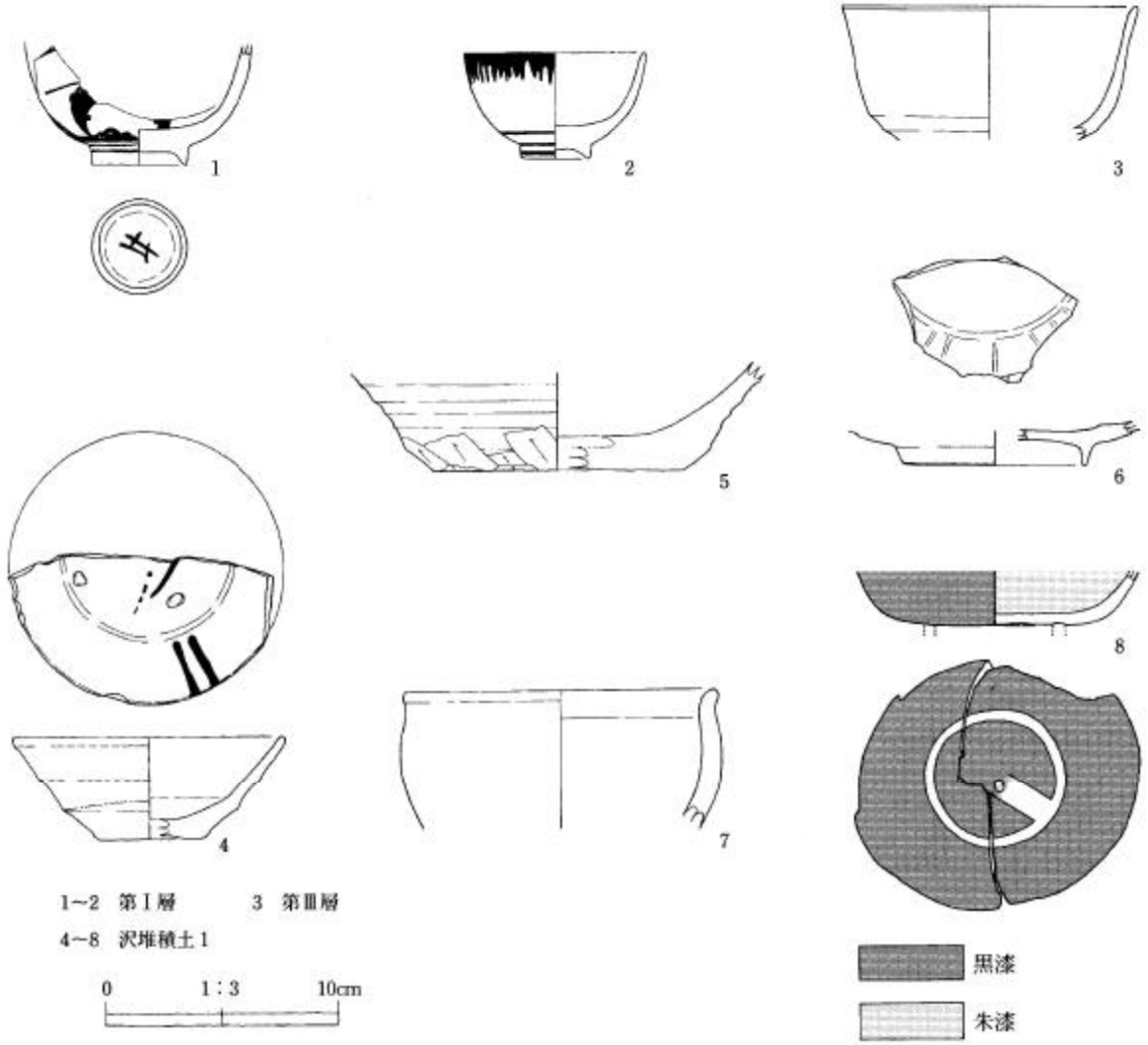
参考文献

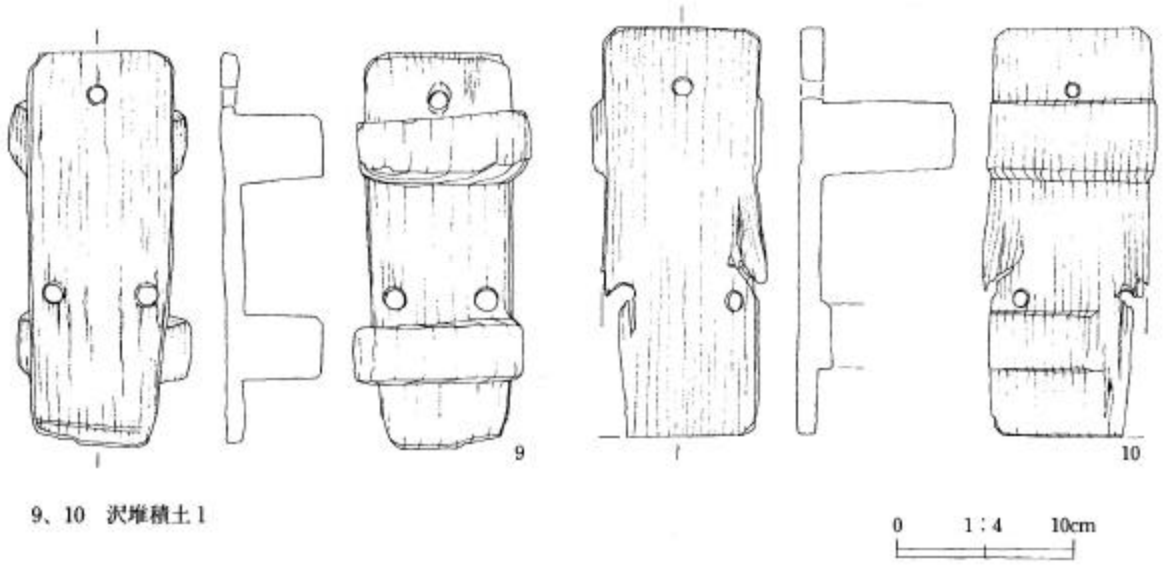
九州近世陶磁器学会　2000　『九州陶磁の編年－九州近世陶磁学会10周年記念－』

大橋康二　2000　『肥前陶磁』（考古学ライブラリー55）ニューサイエンス社

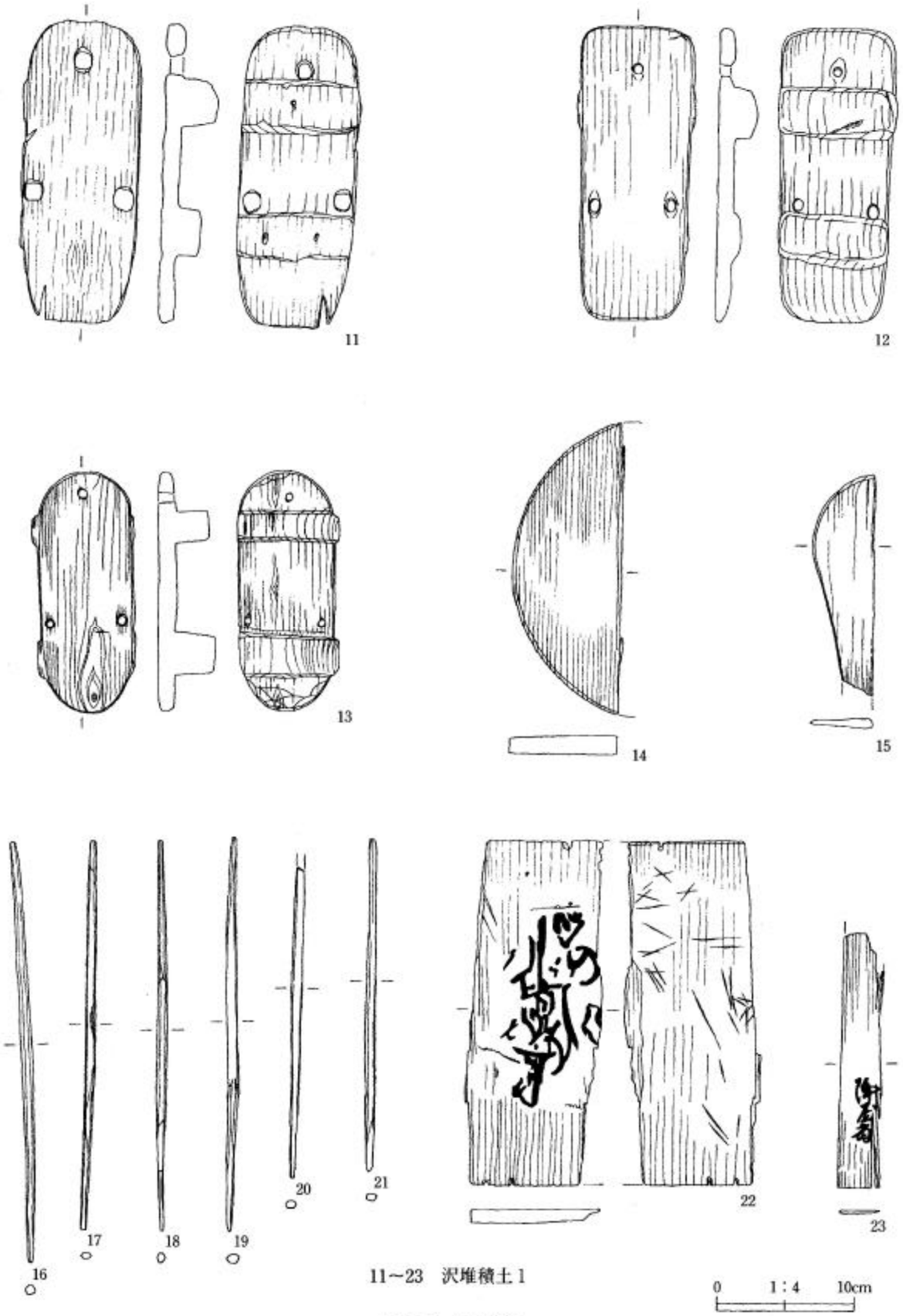
江戸遺跡研究会　2001　『図説 江戸考古学研究辞典』　柏書房

秋田市教育委員会　2002　『藩校明徳館跡－市街地再開発事業に伴う発掘調査報告書－』


1
2
3
5
6
8
4
7
1～2　第Ⅰ層　　3　第Ⅲ層
4～8　沢堆積土1
0　1：3　10cm
黒漆
朱漆


9
10
9、10　沢堆積土1
0　1：4　10cm

第15図　出土遺物



第16図　出土遺物

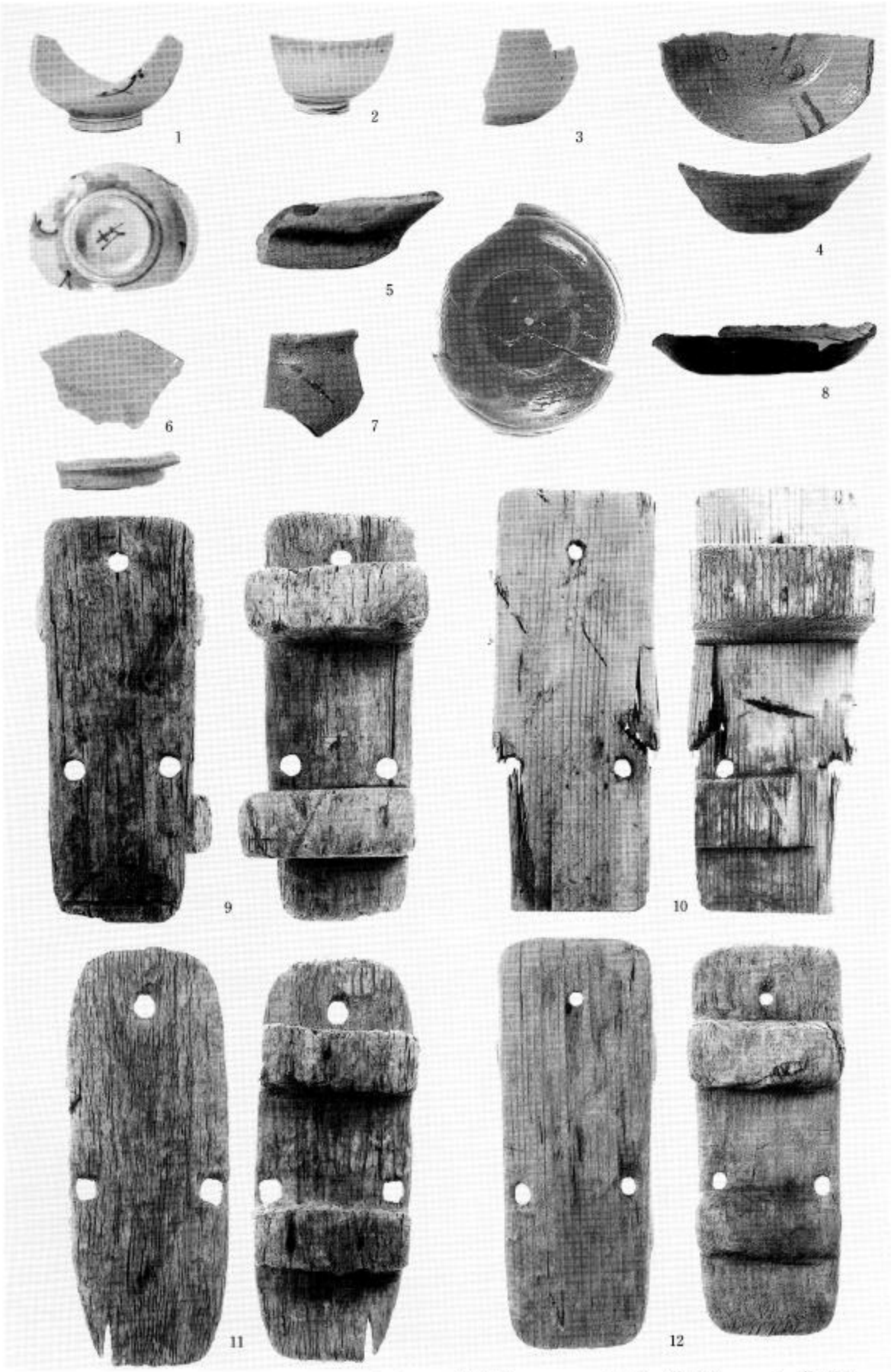


写真７　出土遺物　　１～２　第Ⅰ層　　３　第Ⅲ層
４～12　沢堆積土１

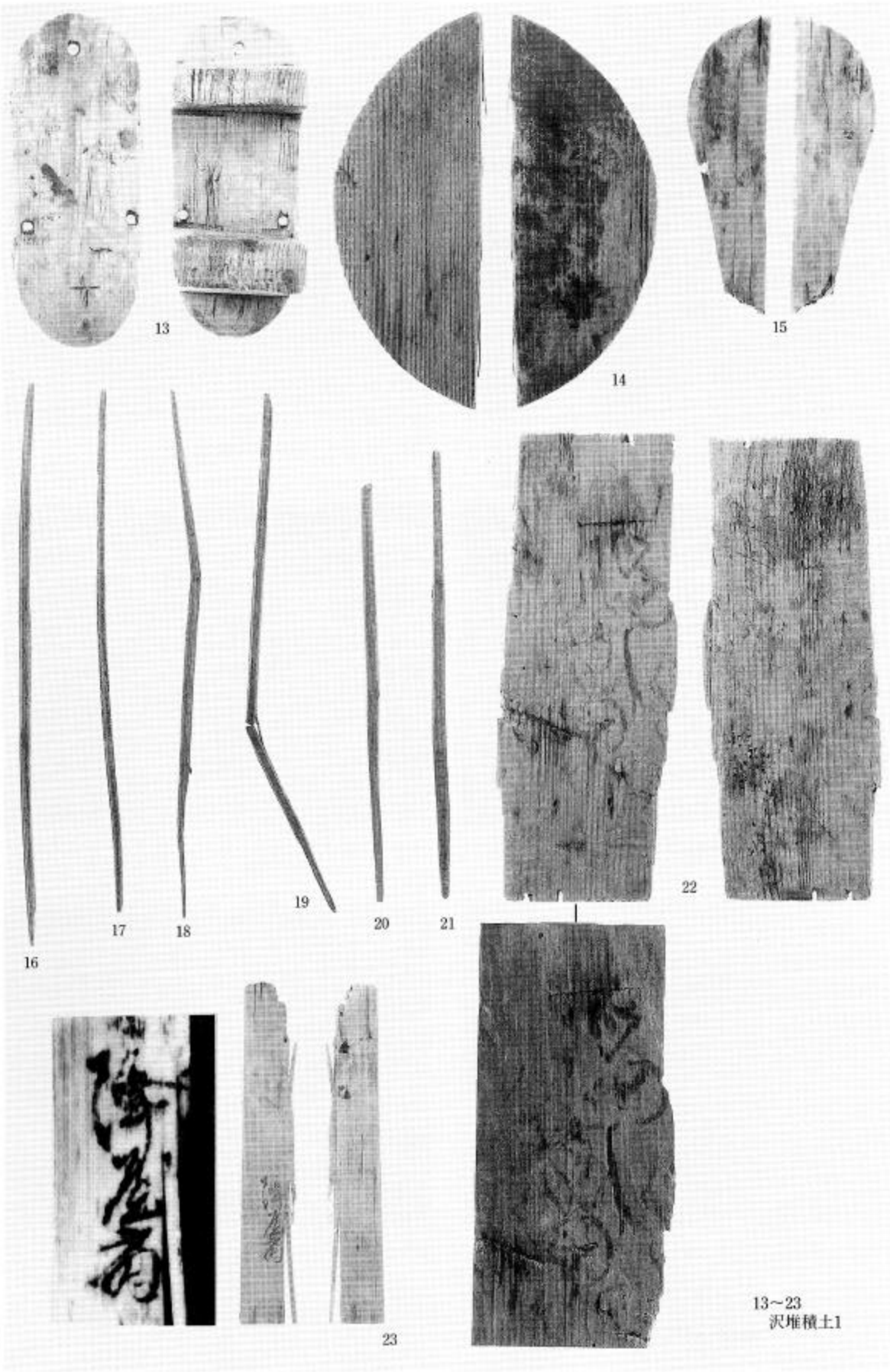
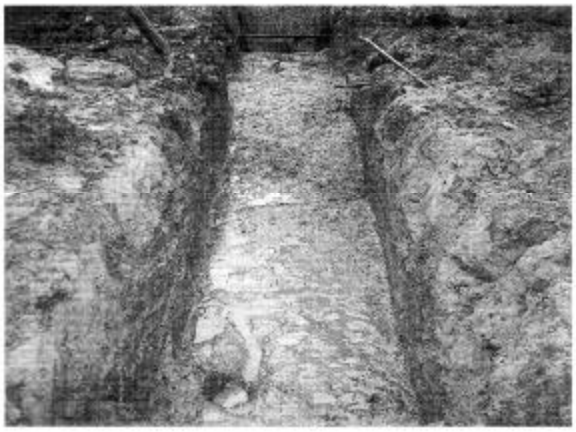


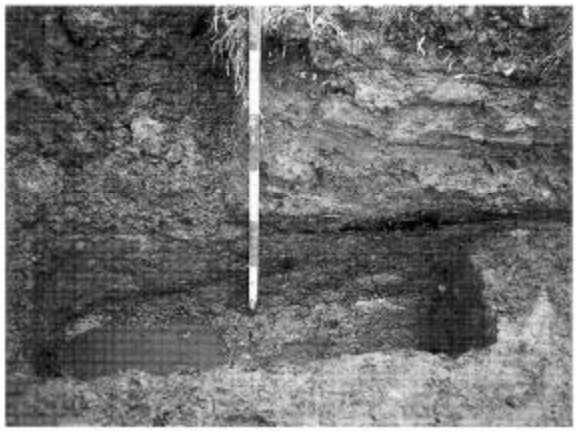
写真 8　出土遺物

調査地全景（南→）

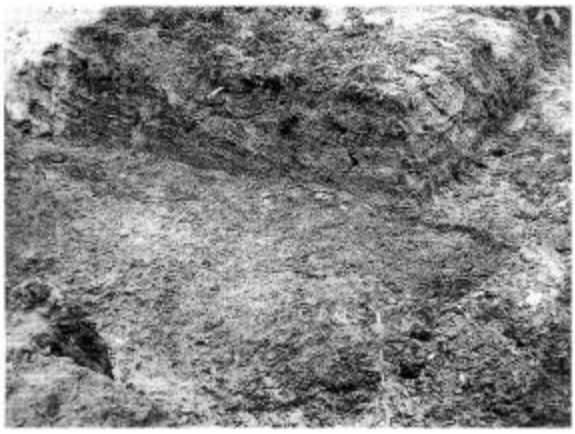
南北トレンチ　堀跡検出状況（南→）



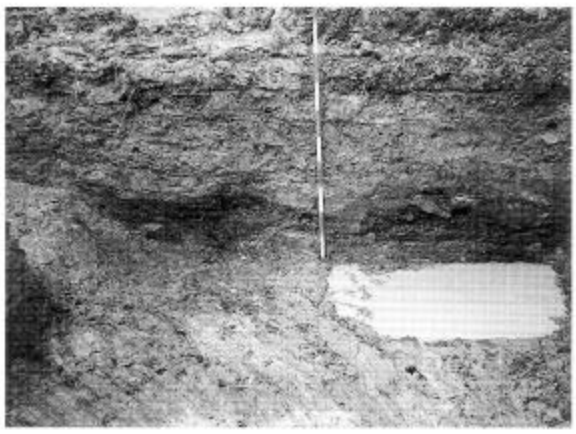
東西トレンチ　堀跡検出状況（西→）



堀跡　土層状況（西→）



沢状落ち込み検出状況（南→）



沢状落ち込み　土層状況（西→）

写真 9

9　下新城地区老人ホーム増設事業予定地（遺跡存在可能性地）

1　調 査 地　　秋田市下新城笠岡字川向17-1ほか

2　調査期日　　平成14年11月26日

3　調査面積　　138㎡（調査対象面積 2,309㎡）

4　起因事業　　老人ホーム増設事業

5　調査に至る経緯

社会福祉法人秋田中央福祉会は、下新城笠岡字川向に老人ホーム増設事業を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成14年11月８日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、事業予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は、秋田市の北部、上新城丘陵の末端に接している沖積地にあり、標高約11ｍの地点である。現況は水田である。南東側に飯岡館（中世）、北側に笠岡館（中世）、東側に岩城館（中世）が所在し、中世城館が近接していることから遺跡が存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

調査は、事業予定地の東西方向に平行して幅２ｍのトレンチを２本設定し、バックホーによって試掘し、遺構・遺物の有無を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 褐色土（耕作土、10cm）、第Ⅱ層 暗青灰色土（造成土、15～20cm）、第Ⅲ層 褐灰色土（造成土、20～35cm）、第Ⅳ層 白色小礫の混じる暗褐色土（造成土、15～40cm）、第Ⅴ層 青灰色砂（自然堆積層、５～15cm）、第Ⅵ層 植物遺体の混じる暗褐色土（自然堆積層、15～25cm）、第Ⅶ層 植物遺体層（自然堆積層、15～25cm）、第Ⅷ層 植物遺体の混じる青灰色粘土（地山、10cm～）である。第Ⅳ層下部には植物遺体が混入する。第Ⅴ層、第Ⅵ層は河川の氾濫による自然堆積と考えられ、無遺物層である。第Ⅴ層、第Ⅵ層は、第２号トレンチ東側では認められず、第１号トレンチ全面および第２号トレンチ西側に堆積している。第Ⅴ層上面は、調査地西側にいくに従って僅かに高くなっており、調査地外の新城川左岸の自然堤防状の地形に連続するものと考えられる。

調査の結果、調査地は新城川左岸の自然堤防の末端にあたり、旧地形は湿地であったと考えられる。従って、東側丘陵の延長となる微高地は確認されず、遺構の発見はなかった。遺物は第２号トレンチ東端の第Ⅱ層（造成土）より近世陶器の肥前系皿（18世紀）が１点のみ発見されたが、近・現代の水田造成時混入したものと考えられる。

以上のことから遺構・遺物包含層は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：伊藤・神田）

第17図　下新城地区老人ホーム増設事業予定地調査位置図

調査地全景（西→）

第２号トレンチ調査状況（東→）

写真10

10　金足地区知的障害者施設建設事業予定地（遺跡存在可能性地）

1　調 査 地　　秋田市金足浦山字岩崎173-１、174

2　調査期日　　平成14年11月28日

3　調査面積　　134㎡（調査対象面積 1,858㎡）

4　起因事業　　知的障害者施設建設事業

5　調査に至る経緯

社会福祉法人（仮称）愛心会は、金足浦山字岩崎に知的障害者施設建設事業を予定していることから、秋田市教育委員会との間で開発に伴う事前協議を行った。協議の結果、平成14年11月14日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査の依頼があった。分布調査による現況確認の結果、工事予定地は周辺に遺跡が存在することや、地形等から遺跡存在の可能性があると判断したので試掘調査を実施した。

6　立地と現況

事業予定地は、秋田市の北部、上新城丘陵の末端に接している沖積地にあり、標高約８ｍの地点である。現況は水田を盛土造成した所である。周辺には、東側にカニ沢遺跡（平安）、南東側に金ヶ崎遺跡（奈良・平安）が所在する。また、丘陵の末端には金足浦山集落があることから、遺跡が存在する可能性がある地域である。

7　調査の概要及び結果

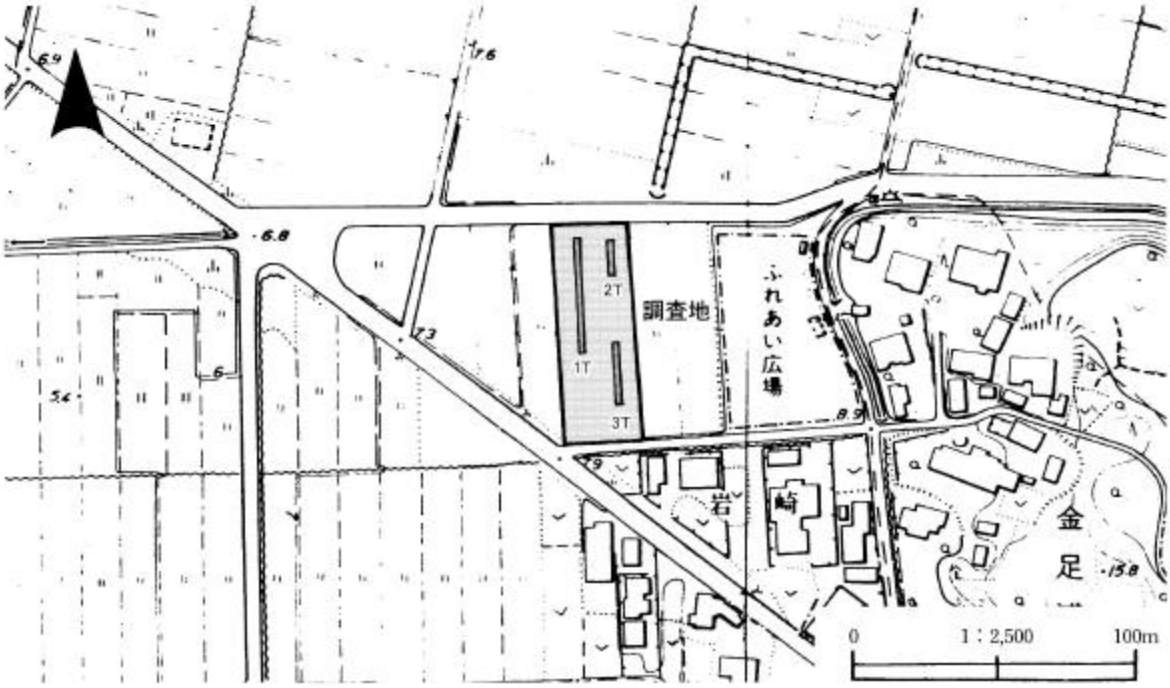
調査は、事業予定地に幅1.8ｍのトレンチを３本設定して、バックホーによって試掘し、遺構・遺物を確認した。

調査地の基本層序は、第Ⅰ層 砕石の混じる黄褐色砂（造成土、20～50㎝）、第Ⅱ層 砕石の混じる青灰色砂（造成土、10～50㎝）、第Ⅲ層 褐灰色土（造成土、10～40㎝）、第Ⅳ層 青灰色小礫の混じる褐色土（造成土、10～30㎝）、第Ⅴ層 植物遺体層（自然堆積層、15～30㎝）、第Ⅵ層 植物遺体の混じる青灰色粘土（地山）である。第１号トレンチ北側および第２号トレンチでは、第Ⅴ層（植物遺体層）が認められないことから、第Ⅴ層は調査地南半部にのみ堆積している。第Ⅲ～Ⅳ層は、以前に水田であった時の造成土と考えられる。なお、第１号トレンチ中央部において、第Ⅲ層の上に灰褐色土（造成土、15㎝）が堆積していることから、第Ⅲ'層とした。第３号トレンチ第Ⅱ層の下に白色小礫の混じる暗褐色土（造成土、15㎝）が認められ第Ⅱ'層とした。また、この第Ⅱ'層の下に浅黄褐色土（造成土、50㎝）が認められ、第Ⅱ"層とした。

調査の結果、調査地の旧地形は東側丘陵の延長となる微高地の末端が調査地北側で確認され、調査地南側は湿地であったと考えられる。調査地北側で確認された微高地も、青灰色粘土に植物遺体が混じることから、何度か馬踏川の氾濫原となって湿地状になっていたと考えられる。遺構は確認されなかった。遺物は、第３号トレンチ中央部の第Ⅴ層（植物遺体層）上面より、須恵器蓋片（９世紀）が１点のみ発見されたが、周辺からの出土は全くなく、湿地への流れ込みと判断した。なお、遺物包含層は確認されなかった。

以上のことから遺構・遺物包含層は確認されず、遺跡は存在しないと判断した。

（調査担当：安田・伊藤・神田）



第18図　金足地区知的障害者施設建設事業予定地調査位置図

調査地全景（西→）

第１号トレンチ調査状況（北→）

写真11

報告書抄録

ふりがな	しないいせきかくにんちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡確認調査報告書
副書名	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	神田和彦
編集機関	秋田市教育委員会
所在地	〒010－0951　秋田県秋田市山王二丁目1番53号　TEL 018-866-2246
発行年月日	2003年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
開発予定地	ひろおもて 広面字こんどうせきごし 近藤堰越	05201	—	39度 43分 35秒	140度 9分 0秒	20020219	61	店舗建築工事
開発予定地	よつごやこあじ 四ツ小屋小阿地字 さかのうえ 坂ノ上	05201	—	39度 39分 20秒	140度 9分 10秒	20020719	45	無線基地局建設工事
開発予定地	いいじまこくちょう 飯島穀丁	05201	—	39度 46分 20秒	140度 4分 5秒	20020724 ～ 20020725	185	宅地分譲事業
かみしんじょう 上新城 ちゅうがっこう 中学校	かみしんじょうごじゅっちょう 上新城五十丁 こばやし 字小林	05201	119	39度 47分 31秒	140度 7分 14秒	20020730 ～ 20020731	18	ポンプ場建設事業
へび の 蛇野	てがた おおさわ 手形字大沢	05201	219	39度 43分 35秒	140度 8分 30秒	20021024	122	共同住宅建設事業
開発予定地	しもしんじょうかさおか 下新城笠岡字 せきば 堰場ほか	05201	—	39度 47分 55秒	140度 5分 20秒	20021105 ～ 20021109	614	圃場整備事業
あきたじょうあと 秋田城跡	しょうぐんのみなみいっちょうめ 将軍野南一丁目	05201	186	39度 44分 25秒	140度 5分 0秒	20021115 ～ 20021118	22	住宅解体工事
くぼたじょうあと 久保田城跡	せんしゅうめいとくちょう 千秋明徳町	05201	217	39度 43分 55秒	140度 7分 40秒	20021118 ～ 20021119	58	学校建築工事
開発予定地	しもしんじょうかさおか 下新城笠岡字 かわむかい 川向	05201	—	39度 47分 20秒	140度 4分 45秒	20021126	138	老人ホーム増設事業
開発予定地	かなあしうらやま いわさき 金足浦山字岩崎	05201	—	39度 50分 0秒	140度 4分 45秒	20021128	134	知的障害者施設建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上新城中学校	集落跡	縄文	土坑、ピット	縄文土器、石鏃、剥片	
久保田城跡	城郭	近世	堀跡	陶器、磁器、漆器、木製品	

秋田市
市内遺跡確認調査報告書

印刷・発行　平成15年３月
発　　行　秋田市教育委員会
事 務 局　〒010-0951 秋田市山王二丁目１番53番
山王21ビル内
TEL 018-866-2246　FAX 018-866-2252
印　　刷　武内印刷株式会社